

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471100105
法人名	社会福祉法人 百鷗
事業所名	グループホーム びやくしんの苑
訪問調査日	2019年3月15日
評価確定日	2019年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 30 年度

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471100105	事業の開始年月日	平成14年4月1日	
		指定年月日	平成14年4月1日	
法人名	社会福祉法人 百鷗			
事業所名	グループホーム びやくしんの苑			
所在地	(240-0113)			
	葉山町 長柄 62-4			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成31年2月1日	評価結果 市町村受理日	令和元年5月14日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の中でみんなが一緒に生きる喜びを育み「生きている力」を十分に発揮し「個々のその人らしさ」を大切に、今を生きる楽しさが持てる生活支援をしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成31年3月15日	評価機関 評価決定日	平成31年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- この事業所の経営は社会福祉法人「百鷗」です。同法人は葉山町と逗子市に特養「清寿苑」葉山町にグループホームを2事業所・居宅介護支援事業所を2ヶ所展開しています。今年で法人設立から28年目を迎え、この地域の高齢者の生活を様々な方法で支援しています。ここ「びやくしんの苑」は開設から17年目を迎え葉山で歴史と実績のあるグループホームです。この事業所は、JR「逗子駅」からバスに10分程乗車し、「長柄橋」下車した徒歩2分、バス通りから少し入った静かな住宅街にあります。事業所の周辺は、山々に囲まれており、窓からは鳥のさえずりも聞きながら、四季折々によって異なる自然の風景を楽しむことが出来る、風光明媚な環境下にあります。
- 事業所の理念を「・利用者一人ひとりが此処にいて良かったと思える場所を提供できるように優しさと思いやりの介護に努める・利用者の気持ちを理解し心身ともに落ち着ける環境を作り出す」とし、理念は事務室に掲示して、毎朝の申し送り時や、職員会議等で説明する等して、共有化を図っています。昨年11月に就任した管理者は、様々な介護施設で相談員を含めて経験が豊富にあり、利用者の皆さんが何時も笑顔でいられる様に、そして一緒に生きる喜びを育み「生きている力」を十分に発揮し「個々のその人らしさ」を大切にとの思いの下、今を生きる楽しさが持てる生活支援を、全職員が一体となって目指しています。
- 地域との交流は、地域の夏祭りに神輿の休憩所として飲み物を提供し、間近で神輿を披露して頂いたり、事業所で行なう防災訓練や、レクリエーション、昼食バイキング時には近隣の方にも声掛けする等、地域の方々との交流を図っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム びやくしんの苑
ユニット名	

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
	○	3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は地元地域に開かれた、愛着のある、信頼される施設を目指しており、理念に向かってホーム作りをしている。	法人の理念に基づき、事業所では「・利用者一人ひとりが此処にいて良かったと思える場所を提供できるように優しさと思いやりの介護に努める・利用者の気持ちを理解し心身ともに落ち着ける環境を作り出す」を理念とし、事務室に掲示して毎日の申し送り時等で共有しています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110当番を引き受けている。防災訓練、歌、体操などのレクリエーションバイキング等に参加していただいている、町内のお祭りでは御神輿に寄っていただき、飲み物等を提供している。	自治会に加入し、地域の情報は回覧板を通して把握しています。地域の夏祭りでは、神輿に寄ってもらい、休憩所として飲み物を提供しています。また、事業所の防災訓練や、レクリエーション、昼食バイキング時には地域の方にも参加を呼びかけ、交流を図っています。事業所前の道路が、小学校の通学路になっていることから、子供110番を継続して引き受けています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方が気軽に相談等に来られるように、日頃より挨拶等を心がけコミュニケーションをとっている。	/		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やサービスの活動実施報告を行い、近隣の方、利用者の家族、民生委員などから意見をいただき、交換してサービス向上に取り入れている。	運営推進会議は年4回、葉山町役場職員、民生委員、地域の方、家族の参加を得て開催しています。利用者の近況報告や、行事の報告には写真も一緒に見て頂くことで、様子が分かりやすいように工夫しています。感染症が流行る時期には、参加者から玄関に消毒液やマスク、健康チェック表を置くようにとの提案を頂いたので実施しています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	葉山町役場の福祉課との連携を密に行い、グループホームの状況や取組みを伝えている。	葉山町役場からの情報は、法人本部にメールが入り、本部から関連内容の連絡が有ります。葉山町役場へは、加算関係の相談や、関係書類の提出で担当部署へ直接訪問して協力関係の構築に努めています。グループホーム連絡会に加入していますが、現在は定例会等に参加出来ていないので、今後は出席して情報交換や情報の共有に努めていきたいと考えています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本身体拘束は0で行っているが、車との接触を避けるため、玄関の施錠のみ行っている。	法人全体で「身体拘束ゼロ」に取り組み、事業所内でも身体拘束の委員会を3ヶ月に1回開催しています。身体拘束マニュアルの整備をはじめ、定期的に職員への研修を行っている他、外部研修も受講しています。玄関の施錠は行っていますが、勝手口の出入りは自由に出来るようにしており、庭に出て日光浴等を行っています。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修などで虐待防止の基本的理念を学びそれを内部研修として勉強会を行い、虐待防止についての意識付けを強くしている。虐待を見過ごす事なく、注意をはらい対応をしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては内部研修で学ぶ機会を設けている。個々の必要性を関係者と話し合い、活用できるよう支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は必ず事前に見学等に来所していただき、十分なアセスメントをさせていただき入所契約時には契約内容、重要事項説明書等を細かく説明させていただき、納得していただいた際にサインをいただきます。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にて、要望また苦情に関するシステム等を説明し、家族が管理者また職員に気軽に話せる雰囲気を作り上げている。	入居時に、苦情相談窓口について説明しています。家族の面会時には、職員から積極的に話しかける等、話し易い雰囲気づくりを心がけています。毎月利用者一人ひとりの居室担当者が、介護報告書を下書きして管理者から家族へ郵送しています。家族からの意見や要望は連絡帳に記載し、全職員で共有しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回必ず職員会議また随時内部研修等を行い職員間の意見交換等をする事で今後の活動に反映している。	毎朝の申し送りや、月に1回の職員会議にて職員間の意見交換を行っています。職員からの意見や提案は積極的に吸い上げて検討し、業務改善につなげています。最近では、「・転倒防止のための時間帯による見守りの不足・薬剤のセットを特定の職員だけでなく全員でチェックをする」等の提案が挙がったので、実施しています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	充実した、職員配置を行い、職員に大きな負担をかけない対応をしている。処遇改善加算を利用した手当て関係の見通し、または、十分に休養が取れるシフトを考えている。人事考課制度の適切な運営を行う。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成に必要な内部、外部研修計画を立て実践していく事で充実した教育を行っていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣のグループホームとの連絡会を設け、交流を深める事でより良い運営が出来るよう心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用の前の段階で家族またその関係各所と細かい面接等を行い、本人の要望、不安に思われている事を聞きだし、検討する事で信頼関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安な部分を聞き出し、要望、希望に応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面接にて本人、家族と十分に話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と生活を共にし、朝の掃除、食事の片付け、洗濯物たたみなどを行い、共存している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一回家族に介護報告書を送り、本人の健康状態また普段の生活ぶりを伝え、家族の意見や希望を伺う事で共に本人を支えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方また馴染みの方も気軽に訪問出来る、雰囲気作りをし、イベント、レクリエーションにも参加してもらっている。	家族の面会時に、実家に帰ったり、食事やお墓参りに行っている方もいます。近隣の方や、馴染みの民生委員の来訪もあり、イベントやレクリエーションに参加して頂く等ながら、馴染みの関係を継続出来るように支援しています。家族が遠方に住んでいる方、余り面会に来られない方は、個別に外出支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や特性を理解して、利用者同士の関わりが良くなるように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も同じ法人の施設に入所した場合は様子を見に行くなど、また家族に電話にて様子を伺ったり、必要に応じてフォローし、相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の希望を聞き入れ意向を把握し対応を心がけている困難な場合は日常の行動や言動で対応し、及び非言語的コミュニケーションで表現を把握している。	入居前に、これまでの担当ケアマネジャーや、家族から、生活歴、思いや意向、暮らし方の希望について情報を聞き、意向の把握に努めています。日常の気づき等は、申し送りや記録に残して情報を共有しています。発語が困難な方は、身振りや手振り、声掛けによる表情の変化等から意向を把握する様にしています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に訪問調査を行い、家族と聞き取り面接等にてまた介護事業者の情報提供により把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、朝夕と細かい申し送りを行い、ケース記録を詳細に記入し、ケース会議、スタッフ会議にて個々の状態の変化に対応するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に要望、意見を聞き入れ、課題等をケース会議、ミーティングに取り入れ、職員の意見等を出し合いアイデア等を反映した介護計画を作成している。	入居時の介護計画はアセスメント・ADL表の情報を基に作成して、1ヶ月間様子を観察しています。その後は、日々の記録や職員の気づき等の情報を加味して6ヶ月毎に更新しています。特変により課題が生じた際には、その都度変更し、無ければ3ヶ月毎にケース会議を開催してサービス内容の検討をしています。家族への説明や承認は、面会時に行い、遠方の方や来れない方へは郵送しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録の他に連絡ノートまた、ミーティング等で情報を共有、実践していき介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人また家族状況の細かい変化にも対応出来るような柔軟な考えを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアが定期的に来苑され近くに散歩され、地域の方とのコミュニケーションまた会話等をたのしまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の面接にてかかりつけの病院等を聞き入れ適切な受診が出来るよう対応している。また、その様なかかりつけがない場合は苑が委託している、診療所の往診にて適切な医療を受けられる様に支援している。	入居時に協力医療機関について説明をした後に、本人や家族の意向を尊重して、主治医を決めて頂いています。現在は全員の方が協力医から月2回の往診を受けています。歯科は定期口腔ケアを数名の方が月に1回受け、義歯の調整や治療はその都度受診しています。協力医の看護師が、往診時一緒に来ての健康管理や、医療相談、24時間のオンコールにも対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、家族、本人の意向を聞きつつ入所者全員が委託している、神奈川みなみ医療生協逗子診療所にて月2回の定期往診及び緊急時の相談また必要に応じて、往診をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院以外にも他の病院関係とも情報を交換し、入退院をスムーズに行えるよう対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族と本人が身体的に重度化した場合また終末期の施設の対応について話し合っている。	入居時に、重度化や終末期における事業所の方針を伝えています。事業所では、基本的に看取りを行わない方針としており、重度化が見られた際には、医師、看護師、家族、管理者で話し合いの場を設け、種々各々の選択肢を提示しながら今後の方針について話し合っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルを作成し、それに基づき、定期的に研修を行うなどし学び実践している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時に伴う、防災訓練等を年2回行い、近隣の方にも参加していただき、協力体制を築いている。	防災訓練は年に2回、近隣住民の参加を得て実施しています。消防署は年1回の点検で来訪しています。防災設備業者による機器点検時には、併せて消火器の取り扱い方についても指導を受けています。避難誘導時のヘルメットや、利用者用の防災頭巾も準備している他、食料関係は3～4日分を備蓄しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議やミーティング等で接遇などについて学び、利用者の人格を尊重する声かけをするよう話し合い、実践している。	入職時に、人格の尊重やプライバシーの確保などについて契約書を交わしています。また、毎朝のミーティングや、月に1回の職員会議後の勉強会でも、接遇について学ぶ機会を設けています。排泄や入浴時の介助時には、羞恥心にも配慮しながら、人格を損なうことの無いように対応しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の発言、意見を尊重し本人が物事を決められる環境を作り出し納得してもらうよう心がけ、日頃より支援している。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意見を尊重し一人ひとりがその人らしく生活をしていけるよう、要望、希望を聞きながら支援していく。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々にあったセンスを見出し、季節や外出先などに合った身だしなみを考慮して支援をしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き取り、それを参考にし季節感を感じる献立を考え、楽しい食事を行い、食後の片付け等も手伝っていただく。	食材の手配は2ヶ所の業者を利用して、週の前半、後半に分けて注文しています。行事の際は、業者からの発注を止めて買い物に行き、利用者の希望を取り入れたメニューで提供しています。また、外食でファミリーレストランへ行ったり、おやつを手作りする等、食事を楽しめるようにしています。出来る方には、テーブル拭き、食器拭きなどを手伝って頂いています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事作りを行い、毎食の食事摂取量をチェックし、利用者の身体状況により食事形態の変化を行います。また、脱水症状に注意し水分摂取に気をつけます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。なるべく自分でやっているが、必要に応じて介助等を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々にあった排泄パターンがあるので必要以上の介助は行わず、必要最低限の介助にて対応するよう心がけている。	排泄チェック表を基に、1人ひとりの排泄パターンを把握し、日中は全員がトイレで排泄出来るようトイレ誘導を行っています。夜間は一部の方を除き、定時による声掛けでトイレ誘導をしています。自立している方はさり気なくカーテンや扉を閉める等の必要最低限の介助で対応するように心がけています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取すると共に歩行をするなどの適度な運動を促し腸の動きを活発にする。また野菜等をなるべく摂取してもらうように対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回また3回入浴を行い、そのタイミングに合わせた日程を決めてスムーズに入浴を楽しんでもらっている。	週2回を基本としていますが、希望によって週3回入浴している方もいます。時間は午前中を基本としていますが、入浴の順番や時間、日にち等は希望や体調に応じて臨機応変に対応しています。重度している方でも、職員2名対応で浴槽に浸かって頂けるように支援しています。入浴時には、職員との会話しながら、ゆっくりと入浴を楽しんでもらえるようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力等を考慮し長時間離床対応が困難な利用者に関しては医師と相談し適度な入所時間を設け心地よい安眠が出来るよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての内服薬、外用薬は施設の方で管理し必要時に内服、塗布するように対応、医師の処方に従った使用を行い、用途、注意事項を把握し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力にあった、役割分担をする事で日常生活的な仕事出来るようにしている。食器洗い、洗濯物たたみ等を行い、生活感のある喜びを感じていただく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望を聞いて、その都度外出計画を立て本人がどのような場所が好みであったかを聞き取り参考にし外出等を検討する。	天気や気候の良い日には、午後から散歩に行き、季節ごとに移り変わる四季折々の山々の自然を満喫して頂けるようにしています。事業所の周辺には、畑や川も流れているため、鳥のさえずりを川のせせらぎを聞く等、環境を生かした外出支援を行っています。また、行事委員の計画で、桜の花見や美術館などにも出かけ、外食をする事もあります。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理の出来る方がおらず、施設側が安全に金庫内にて管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に於いて電話等をしようしている。手紙等を手がける方は現在はいませんが、希望があれば支援し対応します。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感にあった、壁飾り等をみんなで作成し、また、実際に書かれた絵画等を飾る事で満足していただくようにしている。	リビングには、大きな窓があり明るく周囲の壁には、利用者と一緒に作った折紙や切り絵など季節の作品を飾っています。屋内は、リビングを中心に回廊式の造りになっており、所々置いてあるソファで、休んで一人の時間を過ごしている方もいます。転倒防止のために、見守りの職員を必ず配置するようにしています。温度や湿度は、職員が確認しながら適度に保たれています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファなどを設置し、気の合うもの同士が談笑し和める場所を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅等で使用していた家具、備品などを持参していただき、なるべく住み慣れた自宅環境を提供し気持ちが落ち着く居心地の良い空間を作りだし、過ごしていただく。	各居室は広くベッドや箆笥を置いても十分なスペースがあります。エアコン、洗面台、防災カーテン、照明は完備されており、他の人の目を気にせずに身だしなみを整えることもできます。本人が自宅で使用していた家具類、縫いぐるみ、家族写真、人形等が持ち込まれ、家族と相談しながら、好きな位置に配置して頂いています。衣替えや、片付け、布団干しなどは居室担当が手伝っています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る限りの能力を発揮していただき自分で出来る部分は自分で行えるように支援していく。		

目 標 達 成 計 画

事業所

びやくしんの苑

作成日

平成31年3月15日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		身体能力の低下に伴い脚力が低下、転倒のリスクが高くなっています。	職員の転倒防止に対する意識を向上させ転倒防止に努める。	職員会議また内部研修などで転倒に対するリスク等を話し合い意識を高める、また引き続き見守り当番を設置し見守りの重要性を高める。	1年間
2					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。